

子育てママ向けのサンプリングカフェを開店

**空き店舗を利用した行政の活性化事業で
子育て支援のコミュニティスペースを。
商店街全体の活性化に取り組み試みも**

**高齢化が進む商店街と
近隣に増える子育て世代**

久が原銀座商店街振興組合は、東急池上線久が原駅の東側に伸びる近隣型商店街である。当時、末広駅と呼ばれた駅は大正12年に開通し、雑木林や田畑の広がる武蔵野の台地が区画整理されて、周辺は田園調布と並び称される高級住宅地となった。ほどなく、昭和8年に約10店からなる商店街が創立、街の発展とともに拡大していった。

さらに第二次大戦の空襲を乗り越えての戦後復興、高度成長の時代をへて、久が原銀座はすき間なく店舗が並び、各種商品が豊富に取り揃う商店街へと成長。昭和44年には、振興組合と改めて法人格を持つ組織となる。やがてバ

店街に不動産業が6件と増加しているのも地域の世代交代によるものが大きいと見られるが、平常時の利用者は依然として低迷していることに、商店街は危機感を感じていたという。

**商店街活性化モデル事業で
ママ向けカフェを開業**

そんな現状に対して持ち上がったのが行政による空き店舗対策活性化事業であった。今後の来客数を案じ、大田区の商店街活性化モデル事業に応募、採択され対策に取り組むこととなった。

組合では「ライラック通り」への名称変更20周年のイベントを機に実行委員とともに「久が原を考える会」を発足、理事会メンバーと今後の事業計画が話し合われていた。そこで出たのが、公共の施設や神社仏閣も含め、周辺に人が集まれるスペースが少ないという意見であった。特に子育て世代の母親にはコミュニケーションの場が不可欠であるが、商店街の限られた飲食店で



「ライラックカフェ」入り口

は、その需要をまかないきれないという現状があった。

そこで、地域住民のコミュニティスペース作り、商店街全体の活性化というコンセプトのもと、区から提案されたさまざまな選択肢の中から「子育て支援」と「商店街回遊事業」の2本柱による事業が進められることになったのである。

こうして決定されたのは、子育て中

ブル期には最盛期を迎え、平成5年にはリフレッシュ工事を実施。街路灯の整備、道路のカラー舗装、さらに洗練された街のイメージに合わせて、愛称を一般公募の「ライラック通り久が原」とした。

しかし2000年代に入り、大規模小売店舗法の廃止などの規制緩和もあって、商店街は往時の勢いを少しずつ失っていく。各店舗における後継者不足の問題も、年を重ねるごとに深刻さを増していった。

その反面、周辺環境の良さや大型マンションの建設もあり、近隣の住宅地ではここ数年、子育て世代の流入が続いている。商店街の主催で年2回開催される「ライラックまつり」では、最多で6000人もの来場者を記録。その多くが家族連れであった。近年、商



カフェスペース

「お得」な付加価値を
サンプルの配布によって

の母親をメインターゲットにした「ラ
イラックカフェ」の開店。しかし前例
のないモデル事業であるため、平成27
年10月の計画スタート時は全てがほぼ
手探りの状態であった。そこで商店街
パワーアップ作戦により派遣された専
門家から、営業の方向性、メニュー設
定など、2カ月にわたって助言を受け
ながら開店準備を進めていった。

物件探しで直面したのは、店舗と居
住を同じくするオーナーと賃貸契約を
結ぶ難しさ。結果的には理事長の営む

不動産業の移転によって空いた店舗を
借りることができたが、それなくして
は翌年1月に開店へこぎつけることは
不可能だったという。

ひとくちにカフェと言っても、魅力
ある特色を打ち出さなければ人は集ま
らない。そこで専門家の協力もあって実
現したのが、食品などのサンプルを来
客全員にプレゼントすることであった。
入場料500円を払えば、コーヒーや
紅茶、ジュースなどの飲み物とともに、
現品3点がセットになったサンプルが
3種類の中から選べる。ドリンクの追
加注文は、100円というリーズナブル
な価格で利用しやすく設定された。

また設備や人的な問題でフードメ
ニューは断念したが、商店街で購入し
た食品であれば持ち込みを可能にし
た。さらに近隣の和菓子店へ協力を仰
いでオリジナル商品を販売し、1日限
定40個が完売するなど人気を博してい
る。このほか、組合所属の店舗が取り
扱うパンや服飾雑貨、小物などを販売
するなど商店街の回遊性を高め、全
体の活性化を狙っている。

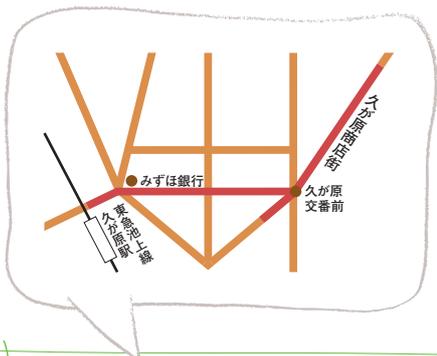
店内の内装や家具は、予算の関係で
ほとんどが自前か手作り。子どもが楽
しめるようなおもちゃや絵本も私物を
活用した。また店頭では手作りが得意
なママによるハンドメイド品、リサイ
クルの子供服なども販売し、子育て世
代がくつろげるアットホームな雰囲気
を醸し出している。

運営には自身も子育て中であるス
タッフを採用。その友人が口コミで集
まることによって、地域に根差した情



子供が遊べるスペースを用意している

報交換の場になっている。さらに不定
期で、親子英会話やベビータウンなど
の教室を開催。コミュニティスペース
としての場を提供することに一役
買っている。今後はカフェの認知度を
高め、子育て世代に定着させるのが課
題だ。こうした人の流れが、やがて商
店街全体の活性化へと繋がっていくの
である。



理事長 泉 淑子



短い準備期間で開店できたのは、公社
や専門家の先生方によるご指導なくして
はありえませんでした。店内の装飾
などは先生の紹介で経営学部の大学生
に協力してもらうなど、若い感覚を取り
入れることもできたと思います。今後は実際に子育て世
代であるスタッフのネットワークも活用しながら、ママ達
が楽しくおしゃべりできるコミュニティスペースを目指し、LINEやFacebookなどのSNSでも情報を発信してい
きたいと思います。

- 商店街名 久が原商店街振興組合
- 加盟店舗数 約 100
- 連絡先 大田区久が原 3-30-18
- 電話 03-3752-3627
- URL <http://www.lilac-ave.com/>
- 活用施策 商店街パワーアップ作戦